



コラム 派遣研究員レポート

名前	派遣先	派遣期間
于 洋	浙江工商大学 東亜文化研究院	2013 年 12 月 8 日～12 月 28 日
李 徳雨	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科	2014 年 1 月 25 日～2 月 14 日
譚 静	北京師範大学文学院 民俗学与文化人類学研究所	2014 年 2 月 25 日～3 月 17 日
田中 あや	フランス国立高等研究院 東アジア文明研究センター	2014 年 3 月 4 日～3 月 24 日

中国の海洋発展政策と舟山群島新区の発展

于 洋

(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)



2013 年 12 月 8 日から 3 週間、非文字資料研究センターの若手派遣研究者として中国の浙江工商大学東亜文化研究院を訪問し、杭州と舟山群島の調査を行う機会を頂いた。今回は、中国の海洋発展政策、特に舟山群島新区の発展について調査した。

中国の海洋政策は主に毎年の国家海洋局、海洋発展戦略研究所が編集した『中国海洋発展報告』を基にしている。その内容については、中国海洋発展の周辺環境、海洋法律と海洋権益、海洋経済と海洋科学技術、海洋生態環境保護と資源開発、海洋政策と海洋管理、極地科学考察などを含んでいる。

近年、中国の経済は海洋に依存している開放型経済であり、このような経済パターンも持続して深まっている。しかし、中国の海洋経済成長は量から質へ移行するようになったが、その構成はまだしっかり固められていない。構造が最適化されてはきたが、まだ一連の問題が存在している。例えば、沿岸の開発は重視するが、深遠海域の使用は軽視する；資源開発を重視するが、海洋生態の効果と利益は軽視する；ならびに類似の工業団地の建設、産業構造の同一、新たな産業が少ないなど、まだ解決すべき問題がある。

また、中国の海洋発展促進のために、2011 年 7 月 7 日、中国の浙江舟山群島新区の設立が正式に批准された。この結果、舟山群島新区は、上海浦東新区、天津滨海新区、重慶両江新区に続く新たな国家級の新区となり、また国務院が批准した国内初の海洋経済主体の国家戦略的側面をもつ新区となった。舟山群島新区の範囲には、舟山市の現行の行政区域が含まれる。新区の機能は「浙江省の海洋経済発展を先導する区」、「海洋の総合開発のテ

スト区」、「長江デルタ地域の経済発展の重要な成長区」などと位置づけられている。新区は今後、中国の大口商品の貯蔵、輸送、中継、加工、取引センター、東部地域の重要な海上の開放窓口、海洋や海洋島の科学的保護開発のモデル区、重要な現代型海洋産業拠点、陸海の一体化発展の先行地区になることを目指して努力するという。

舟山市は国内で唯一の島嶼によって形成され、1390 の島嶼を含む市である。東部沿海地域の中心にあり、北は山東省の膠州湾や渤海湾に連なり、南は福建省や広東省に連なり、西には長江が海に注ぐ地点と杭州湾があり、東は太平洋に直接面しており、中国の沿海省の中で太平洋に最も近い群島である。舟山群島海域の陸域面積は 1,440 平方キロメートル、海域面積 20,800 平方キロメートル、深水海岸線の長さは 280 キロメートルに達し全国の 18.4% を占め、港湾建設の条件として優れている。港湾物流、臨海工業、海洋観光、海洋漁業を根幹とし、海洋島の特色を鮮明に備えた海洋経済システムがすでに基本的に形成されている。

具体的な発展目標は：

1. 2015 年まで、商品取引プラットフォーム、陸と海の交通ネットワークの連携、金融・情報を支える「三位一体」の着信物流サービスシステムの構築を進め、現代の海洋産業システムフレームワークを構築し、海洋生態環境保護能力を強化し続ける。

2. 2020 年までに、海洋生産総価値年間成長率約 20%、総ボートの貨物処理能力は年間 6 億トン以上に達す。

3. 2030 年までに、開放型経済がさらに向上し、世界の先頭に立つ現代海洋産業システムを構築し、基本的

な舟山群島新区の開発目標を実現する。
舟山群島新区の発展とともに、筆者もこの地域におけ

る文化産業と海洋民俗文化の持続と変容の視点から、研究を深めていきたい。

バンクーバーにおける韓人(韓国移民者)達の食文化研究

李 徳雨
(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)



2014.1.25 (土)～2.14 (金)までの21日間、非文字資料研究センターの派遣研究員として、カナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学アジア学科を訪問し、バンクーバーでの韓国移民者(以下、韓人)達の食文化に関して調査を行った。言語と共に母国文化として続いている食文化は、継承力がある非文字文化として数多くの移民者が守っている文化でもある。

カナダへの韓国人の移民は、1960年代からの宣教、留学、西独への看護師・鉦夫移民者の第2次移民をはじめ、1985年以降、「投資移民」と呼ばれる移民までできて韓人は増加し、現在カナダ全土に約23万人の韓人達がいる。バンクーバーでの韓人が最も多かった時期は、1990年代後半で15万人にまで至るほどであった。この時期は韓国でのIMFや、早期留学ブーム¹(英語を勉強させるために子供の時から留学させること)などで海外への移民が一番多かった時期であったが、2000年代半ばから逆移民で韓国に帰る人々が増加し、2014年現在、バンクーバーでの韓人は約8万人程度であると推定している。

調査期間は20日間と短く、50余年間の韓人達の食生活を把握することは簡単なことではなかった。バンクーバー移民は、他の国の移民より経済的に余裕があつて、食生活面では思ったより苦労しなかったという話をよく聞いた。また1960年代から1980年代にやって来た韓人の大多数は西洋食(カナダ食)に憧れがあり、西洋食に適應しながら機会があれば韓国料理を食べたという話もあった。しかしながら1980年代後半から1990年代にかけては、バンクーバー移民者の食文化での分岐点になるともいえる。その理由は韓国人移民者の増加、さらに韓国人移民者の需要に伴って大型スーパーマーケットが登場したためである。以前まで韓国食材を購入するには各地の数少ない韓人が経営する食料品屋(グロサリー、grocery)に行つて高く買うしか方法がなかったが、大型スーパーマーケットが登場してから、低価格で

韓国食材を買うことができるようになったためである。この点が今回の調査を通じて知り得た、バンクーバー韓人の食文化の中で一番印象的なことである。

現在コキットラム(Coquitlam)に位置するコリアンタウンには、ハンナムスーパーマーケットとHマートという大型スーパーマーケットがある。この大型スーパーマーケットが登場したのが1990年代後半であった。この大型スーパーマーケットはコリアンタウンを形成するきっかけになって、その周辺に韓国料理屋や雑貨店など約60店舗ほどが出来た。またこの大型スーパーマーケットの内部は、韓国の大型スーパーマーケットと品物や雰囲気には大差はなく、韓人達が愛用しているよう



写真1 コキットラム(Coquitlam)に位置するコリアンタウン



写真2 韓人会館での旧正月祭り

¹ 韓国での早期留学ブームは、1997年以降、急速に増加し、2001年には7,000余名、2005年には2万名を超えた。